

## 鎮江の寺 甘露寺・金山寺 竹林寺 招隠寺 高崇寺 焦山公園（定慧寺）

### 鎮江市 江蘇省鎮江市と津市は友好都市

鎮江は古い歴史のある街で風光明媚に恵まれ人口は40万人、広さは180km<sup>2</sup>で揚子江という大河川を控え、上海から240km、南京から36kmの地点にあり昔から交通の要衝とあって、隋の時代から栄え、三国時代に呉の孫権によって城が築かれ、一時都となったこともある。

鎮江の特色は街の中に山あり、山の中に街あり自然美に加え、天下第一江山、金山寺、北固山、焦山、伯先公園があり、日本から弘法大師、遣唐使阿倍仲麻呂、禪の画僧雪舟、中国の有名人では王羲之等の文人、墨客の往来もしげく行われた。

金山寺は揚子江の中州あたり、山はあまり高くない。もともと金山寺は揚子江の中州だった。山の高さは44m・周囲520mで、唐の時代に日本真言宗の開祖、弘法大師は唐の都長安にいたが、ここ金山寺でも修行したことが掛軸に描かれており、明の時代禅僧雪舟は禪の修行のかたわら絵の修行をして2年間ここ金山寺に滞在して、揚子江の山水の美観の景色絵を修得してのち日本に帰国した。

呉の絵の題は山水絵として揚子江、ものがたりとして「白蛇伝」、これが日本に伝わり娘道成寺物語として語り継がれたという

**中国虹桥駅** 上海は、上海火車駅、上海南駅、虹桥駅でごく最近開通した新しい駅です。鎮江・揚州に向けていざ出発。



**甘露寺** 北固山北固山は高さ53mの小さな山で、山全体が公園になっています。頂上には三国志演義で有名な甘露寺があります。ホテルよりバスで甘露寺向かうがバス内で現地の人に聞いたら現在境内は改装中で中には入れないとの事で直ぐ金山寺に向かう。

**金山寺** 江蘇省鎮江市金山寺 長江(揚子江)に隣接する金山という山にある金山寺(江天禪寺)、江天禪寺という名は、清の康熙帝が金山寺を訪ねたとき、その絶景に感動して名づけたとされています。金山は、標高50m前後の小山で、その上に沿って金山寺が広がっています。金山寺が創建されたのは、東晋の時代(317-420)に建てられ、現存する建物は少なく八角七層の金山塔(慈寿塔)は清代の建築。

三国時代にも、同じく鎮江にある甘露寺で、劉備が孫権の妹、孫尚香と見合いをしたとき、多景楼といわれる建物から見た長江と金山が織り成す絶景を「天下第一江山」と賞賛した。

真言宗を開いた空海(弘法大師)も、延暦23年(804年)に、遣唐使の留学僧として唐に渡り、一時ここ金山寺に滞在し修行の場であつた。

日本でもおなじみの**金山寺味噌**のルーツでもあります。



金山寺山門と天王殿



立派な山門殿に山号額



天王殿には正面には布袋さん



天王殿には左右には見事な四天王が



大きく立派な大雄寶殿



見事な山号額



見事な三世仏（釈迦三尊）



豪華な前卓（まえじょく）見事です



三世仏の左右には十八羅漢



本堂の右片隅には梵鐘



本堂の左片隅には太鼓



裏堂には見事な観音の立体曼荼羅



屋根の一層目には藏經樓の山号額二層目には「度一切苦厄」



八角七層の金山塔（慈寿塔）



塔の最上段



各階の屋根先には風袋が



最上階からの金山寺全景



鎮江市内と長江



長江には中型貨物船が



遠くには焦山公園 定慧寺



裏山門には金山の山号額

**竹林寺** 江苏省镇江市润州区**4)招隱寺**

竹林寺・招隱寺共に旧日本兵に焼かれ二寺とも無い、竹林寺は探す当てもない、招隱寺は現在公園に成っており寺らしき姿は無い。



**高崇寺** 位于江苏省镇江附近 入口の山門の建物は古いようですが内部の伽藍は最近の建築です。

竹林寺・招隱寺より人里離れた山の奥深い所に有りました。



高崇寺の山門殿は以前の建物



入るといきなり布袋様



新しい伽藍本殿には地藏殿知りされる



觀音殿の内部には四面の觀音様が、両サイドには動物の顔をした羅漢達



玉仏殿の大きな山号額



玉仏殿には白玉仏が置かれている



三聖殿には三世仏が置かれている



正面の本殿は地藏殿になっており地藏菩薩は大きくて見事



蔵菩薩の両サイドには羅漢たちが

見事な木魚



本殿の入口の右には小さな梵鐘

大きく見事な香炉ごく最近の物です



本殿の屋根の中心部 何ですか 両サイドの鴟尾は少し変わっています

山奥です

### 焦山公園 (定慧寺)

焦光という人が、時の皇帝に三度も招かれながら、ここに隠棲していたことから焦山と呼ばれた。

鎮江の「三山」は金山、北固山、焦山

焦山は標高わずか71m、周囲はたったの2kmという小さな島。焦光という人が時の皇帝に三度も招かれながら、この地に隠棲していたということから焦山と呼ばれるようになったという。ヒスイ色の緑の濃い一名「浮玉山」とも呼ばれている。

アヘン戦争 (1840年~2年間) に使用した抗英砲台という要塞の跡があった。阿片戦争の折には、長江を遡

上してきたイギリス艦隊に向かって火を吹いたのだろう。1847年、ここでイギリス艦隊と交戦した折には、1500名の犠牲者が出たとのこと。円弧形に石積みの要塞があり、ずらりと大砲を入れていた入口が並ぶ。前の広場には「江蘇省文物保护单位・焦山古砲台」と刻んだ石碑がある。

定慧寺の前に出た。道端の小宇を隔てて広い中庭があり、大屋根を際立たせた大雄宝殿の大伽藍があった。創建は実に1800年も昔の前漢の興平年間(194~195)。現存は、後世の明代に再建されたもの、大仰な仏像、韋駄天と四天王の像があたりを睥睨していた。



焦山公園は渡し舟渡ります



見事な山門



天王殿



天王殿には見事な山号額



天王殿内には何故か布袋様



山門殿内の左右に四天王



山門殿内の左右に四天王



大きな鐘楼



大きな鼓楼



広い境内に定慧寺の大雄寶殿



大きな山号額



大雄寶殿にも布袋様



大雄寶殿内には四天王



大きな本殿は複式の寄棟



大きな山号額



大雄寶殿には大きく立派な釈迦三尊



ご本尊の左右には羅漢が



ご本尊の左右には羅漢が



本殿の右には小さな鐘楼



梵鐘の下には観音様が



本殿の右には小さな太鼓が



裏堂には見事な観音の立体曼荼羅



万佛塔の入口



万佛塔全景



夕方で時間が過ぎて登れません



焦山古砲台の石碑



アヘン戦争で使用された砲台



焦山のとっても美しい夕日



長江には手こぎの小船